

研究保育

本園では、保育の質の向上のため、日々研究を続けています。今年度の研究のテーマは「『したい 知りたい やってみよう』を育む環境構成と教師の援助 ～子どもの思いに寄り添って～」です。

6月11日(年長)14日(年中)16日(年少)の3日間に分けて、お互いの保育を見合い、水曜日の午後、研究会の時間に協議をしました。

<年長>



スクリュウとプールという環境を準備。スクリュウの巻き方で前に進むか後ろに進むか発見。どちらが早く進むか競争。スクリュウを2個付けたらどうなるか。試行錯誤。

<年中>



巧技台と水槽を使ってスライダー。坂で足を踏ん張る、水を流す、水をあふれさせるなど、一つの場で様々なことを楽しむ姿。忍者の森に家。段ボールでできた家電、絵、カーテン。

<年少>



「お寿司1丁」ティッシュのシャリ、ノリに黄緑の絵の具を混ぜたわさび、色紙のネタ。水に浮かぶ魚を磁石のついた釣り竿で上手に釣ってバケツへ。

「人は生まれながらにして、自然に成長する力と同時に周囲の環境に対して能動的に働きかけようとする力をもっている」子どもたちを見ていると、本当にそのとおりだと思います。

だから、幼稚園教育は「環境を通した教育」を行うのです。

私たち教師は、子どもたちが様々な経験ができるように、「したい 知りたい やってみよう」と思えるような環境を準備し、良質な保育をするために、今後も研究を重ねてまいります。

迷い

ある子どもが、幼稚園の植物の実を採っていました。黄緑色で小さくて、魅力的な実です。その子は、手のひら一杯に集めています。

でも…このままでは、全部なくなってしまうと私は思いました。だから、「もうそのくらいにしてちょうだい。それは、これから色が変わってきれいな色になるよ。」と声を掛けました。

その子は、まず、「やだ。」と言いました。そして、採り続けようとした。

私は、その手を押さえて、「もう、採らないで。」と言いましたが、その子も負けていません。私の手を振りほどいてまた採ろうとした。私も負けずに、また手を押さえて…。

すると、その子は「じゃあ、あと2個。」と打開策を提示してきたのです。おもしろいですね。

さて、私は迷いました。「じゃあ、あと2個だけね。」にするか…

でも、「だめ。」にしました。

その子は「やだ、あと2個」「あと2個だけ」と言い続けましたが、私から止められるので、「じゃあ、あと1個。」と、さらなる妥協案を提示してきました。心の中で「根性がある、賢い子だなあ。」と思いました。

しかし、「その、あと2個を我慢できたら、我慢の力がつくんだよ。」と諭しました。

すると、その子は、すっと手を引き、歩き出しました。

「じゃあ、あと、2個だけね。」と言わなくてよかったと思いました。この子の貴重な成長の機会をつぶさずに済みました。

7月行事予定

- 5(月) 交通安全教室(年長・年中)
- 6(火) 大学院管理職養成コース実習(3名)
- 7(水) 七夕会
- 8(木) 虫博士(大学教官)の話(年長)
- 9(金) 弁当終了日
- 12(月) ほしの子ランド(園児と未就園児の交流)
- 13(火) 保育参観(任意)
- 14(水) 保育参観(任意)
- 16(金) 夏休み前の会



みんなの大好きな山滑り台が化粧直しをしました。ピンクの滑る面が、最近ひび割れてきていたので、業者に塗り直してもらいました。

つるつるになったので、安心して滑れます。

